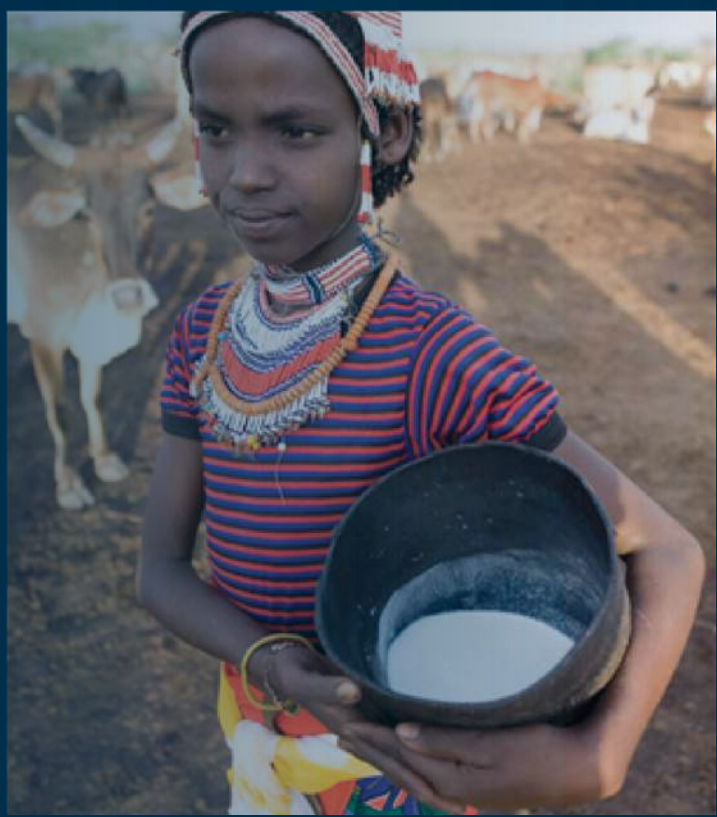


すべての酪農乳業のコミュニティで、
すべての大陸で、私たちは行動を
起こしています。

酪農乳業ネットゼロ への道筋 の一端を担う

取り組みの手引き



#pathwaystodairyzero

共に酪農乳業の野心を掲げ、 気候変動対策を加速させよう

世界の酪農乳業界は、自分たちの業界が地球に与える影響を低減するために団結しています。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」は、規模も範囲も、農業分野では他に類を見ない取り組みです。

あらゆる規模や種類の酪農家、そして酪農乳業のサプライチェーンに関わる組織が集まっています。

どこにいても、どのように酪農乳業の生産システムに寄与していても、酪農乳業ネットゼロに向けた道筋があります。

2021年9月22日、国連(UN)の食料システムサミットの直前に開催された気候変動ウィークにて発足し、今後30年にわたり、乳製品の温室効果ガス(GHG)の排出量を削減することを目的とした活動が展開されます。

私たちは、すでに実施されている取り組みをさらに強化し、排出量の最適化と削減を行うことで、栄養の安定供給を確保し、10億人の明日の生計を立て、私たち全員の未来を守ります。



「酪農乳業セクターは、持続可能な
フードシステムにおける重要な役割を
果たし、直接的にも間接的にも、すべ
ての持続可能な開発目標に貢献
することができます。」

屈 冬玉(チュー・ドンユイ):
国連食糧農業機関(FAO)事務局長のコメント

2020 Global Dairy Platform 年次総会の基調講演にて。

酪農乳業の必要性はこれまで以上に
高まっています。

30% 増え続ける栄養需要を満たす
ために、10年間で牛乳生産量
は増加しています¹

生産効率の向上により、コップ1杯の牛乳を作る
ための温室効果ガス排出量(排出原単位)は、
以下のとおり減っています。

11% 温室効果ガス排出
原単位の削減¹

しかし、すべての産業と同様に、
酪農乳業にもやるべきことがたくさんある
ことを知っています。

積極的な気候変動対策の機会を見極める

どこにいても、どのように酪農乳業の生産システムに寄与していても、酪農乳業ネットゼロに向けた道筋があります。

世界中のすべての酪農生産システム、すべての地域において、気候変動に対する積極的な行動が可能な場所を特定するための新しい研究が進行中です。

研究の結果は、この取り組みの指針となり、酪農乳業ネットゼロに向けた方法論、ツール、道筋を示すこととなります。

予備的な調査結果は以下の通りです。

✓ すべての酪農システムと地域で前向きな変化が可能です。

世界にはさまざまな生産システムがありますが、すべての生産システムに排出強度を削減する機会があります。²

✓ 酪農乳業の排出量を削減するためには、コラボレーションが必要です。

気候、貧困、栄養不良などの多くの課題は、類似した酪農システムにおけるベスト・プラクティス(最善策)を採用することで取り組むことができます。³

✓ 早く結果を出すには、メタンの削減が鍵となります。

反芻家畜から発生する主要なGHGであるメタンは、短寿命の物質です。そのため、メタンの削減量が多ければ、温暖化でより即効性のある効果が得られます。⁴

✓ 酪農乳業には、排出量のかなりの部分を削減する手段がすでにあります。⁵

初期の研究結果では、生産性と資源利用効率を向上させることで、一部のシステムでは排出量を最大40%削減できることがわかっています。

✓ 文言やターゲットを明確にすることで、最良の結果を得るための努力を集中できます。

「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の特別報告書:1.5℃の地球温暖化」に示されているように、酪農乳業の二酸化炭素排出量はネットゼロを目指す必要がありますが、メタンの削減率は24~47%、亜酸化窒素の削減率は26%で可能とされています。⁶

「初期の分析によれば、既存のGHG緩和技術を広く活用することで酪農乳業の排出量削減に重要な影響を与えるだけでなく、新たなイノベーションを生み出すことも可能です。」

ヘイデン・モンゴメリー氏:

農業温室効果ガスに関するグローバル研究アライアンス(GRA)特別代表のコメント

研究は以下の学術機関によって行われています。



Food and Agriculture Organization of the United Nations



NEW ZEALAND AGRICULTURAL GREENHOUSE GAS RESEARCH CENTRE



解決策の一端を担う

あなたが誰であろうと、どこにいようと、あなたの寄与は重要です。

世界の酪農乳業界のあらゆる分野で、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の一端を担うことができます。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」は、以下のことを行います。

✓ コミットメントを得る

増え続ける人口に栄養を届け、酪農乳業が支える10億もの生計を維持しながら、気候変動に取り組むために、世界の酪農乳業界のあらゆる分野からコミットメントを得ます。

✓ 進捗状況を示す

世界中から集まったベスト・プラクティスを共有し、すべての農場、すべてのシステム、すべての地域で、より持続可能になれることを認識します。

✓ 方法論、ツール、道筋を作成する

コミットメントを積極的で実践的な行動に変えるために、方法論、ツール、道筋を作成します。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の6つの基本方針



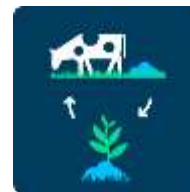
緩和

牛乳乳製品のGHG排出原単位をさらに低減するために、生乳生産および加工処理の効率化を継続的に実施します。



GHG除去

炭素吸収源(土壌、森林、草原、泥炭地)を保護し、自然の生態系を補完する生産方法を強化します。



回避と適応

飼料、糞尿、肥料、エネルギー管理などの慣行を改善します。



インセツとオフセツ

代替となる信頼できる削減方法を特定し、実施します。



測定と監視

温室効果ガスの排出量を測定することで、緩和策を計画し、進捗状況を監視します。



全体のサポート

このイニシアチブを推進し、酪農乳業セクターの気候変動への野心を強調します。

www.pathwaystodairynetzero.org (公式英文サイト) をご覧いただき、酪農乳業ネットゼロへの旅をサポート願います。

あなたの企業や組織において、緩和策を直接実行するか、または、私たちの基本方針を支持・推進をしてください。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」のサポーターになると、コミットメントを表明したり、情報を広めたり、参加する方法を知るのに役立つガイドや素材を受け取ることができます。

A MISSION WITH MOMENTUM.

まさに、時流に乗ったミッションです。「酪農乳業ネットゼロへの道筋」は、世界の酪農乳業セクターが主導し、主要な学術研究機関によって支持されています。



学術協力機関:



参考文献

1. Food and Agriculture Organization of the United Nations, Global Dairy Platform. Global Dairy and GHG Emissions: FAO analysis 2005-2015. 2019. Available at: <http://www.fao.org/3/CA3165EN/ca3165en.pdf>
2. Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO). Greenhouse Gas Emissions from the Dairy Sector: A Life Cycle Assessment. 2010. Available at: <http://www.fao.org/3/k7930e/k7930e00.pdf> [Accessed September 2021].
3. Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO). Climate change and the global dairy cattle sector: The role of the dairy sector in a low - carbon future. 2019. Available at: <http://www.fao.org/3/CA2929EN/ca2929en.pdf> [Accessed September 2021].
4. UN Environment Programme. Global Methane Assessment: Benefits and Costs of Mitigating Methane Emissions. 2021. Available at: <https://www.unep.org/resources/report/global-methane-assessment-benefits-and-costs-mitigating-methane-emissions> [Accessed September 2021].
5. Gerber PJ, Steinfeld H, Henderson B, et al. Tackling climate change through livestock – A global assessment of emissions and mitigation opportunities. Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), Rome. 2013. Available at: <http://www.fao.org/3/i3437e/i3437e.pdf> [Accessed September 2021].
6. Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). Global warming of 1.5°C. An IPCC Special Report on the impacts of global warming of 1.5°C above pre-industrial levels and related global greenhouse gas emission pathways, in the context of strengthening the global response to the threat of climate change, sustainable development, and efforts to eradicate poverty. 2018. Available at: https://www.ipcc.ch/site/assets/uploads/sites/2/2019/06/SR15_Full_Report_Low_Res.pdf [Accessed September 2021].

最終更新日: 2021年9月